

西村 策雄 議員

ごくしゃくせんようなやり方を、やるべきで、いろいろ考えると、14人にするには2年早い。問題を可とするものを起立させと云うが、表現の自由があり、ちよつと無理がある。

浜田 純一 議員

この議案が否決されれば、議会の解散の請求も出ると聞いている。住民の真意として、その結果も見てみたいと思うので反対する。

森 治史 議員

段階的な削減を望んでいるので今回の4人減には賛同できない。

村越比佐夫 議員

合併していない市町村の議員定数は参考にするべきではなく、4180人の署名があるからといって、それが絶対的に正しいとは限らない。削減しても町民のメリットにならない。

山下伊都子 議員

黒潮町は合併してまだ日が浅く、この広い地域を把握し切れていない。端々が切り捨てられる不安の声がある。6月議会では国保税の値上げがだされたが修正をして反対をした。このように議会は住民の要望を取り入れることとあわせて国の悪政にもしっかりとものの言える防波堤の役割がある。地方政治における民主主義の基本問題として反対する。

**賛成討論
7人**

山本 久夫 議員

議会運営にはさまざまな方法があり、町民が求める14人の議員定数でも支障はない。大事なものは議員に与えられた権限、職責、義務を果たすことであり、信頼を得る議会をつくる責任がある。

下村 勝幸 議員

一番大切なのは、なぜこのような住民提案が議会に対して出されたのか、議員全員が厳粛に受け止め、真剣に考えてみる必要がある。原点に立ち返り、議会のあり方や活動方法を精査しなければ、住民の信頼は得られない。

小松 孝年 議員

この住民請求が起きたことの責任は我々にある。議会活動の内容が住民に届かないと言われる中で、議員の多くは自己主張が強く、人の話を聞

く耳をもたないと感じている。この住民請求は真摯に受け止めて、14人に賛成すべき。

西村 將伸 議員

「住民から信頼しうる議員としての職責を全うできる資質を持ち合わせているか否か」が問われている。今の議員定数の中にいる我々当事者の感覚で結論付けるより、署名された住民の意見に賛同するべきで、いったい議員は誰の代表者なのか、その根拠を失う。

門田仁和子 議員

議員一人当たりの人口は、土佐清水市では1180人、四万十市では1654人、黒潮町では940人、この現状なら議会運営は十分できはらず、今回の民意を汲み定数減に賛成する。

坂本 あや 議員

この署名は議会の運営に対する批判であり、叱咤激励と

受け止めている。もっと早くから定数削減に取り組むべきであったし、今回の住民の要望を真摯に受け、定数削減に賛成する。

矢野 昭三 議員

合併協定項目の責務を果たさない中で、急激な定数削減は反対であり、以前は18人に賛成であったが、4180人の住民署名は重いものと考え、賛成する。

反対討論…8人
賛成討論…7人
が意見をのべた後採決がおこなわれました。

